

授業科目名	筋骨格系の構造と機能	実施時期	1 年次 前期・後期
授業回数	90 分×75 回	単位・時間数	5 単位 150 時間
担当者名	酒井 吉仁（理学療法士：基礎理学療法専門理学療法士）		
【授業の概要・目的】 人間の生活行動のための身体の仕組みと働きについて学ぶ。また、疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠である身体を構成する筋・骨格系（運動器）の構造と機能について学ぶ。 前期（1～45 回）は、骨・関節・筋の基本構造と機能について学ぶ。 後期（46～75 回）は、靱帯の構造と機能を加え、身体各部の運動における筋骨格系の働きについて学ぶ。 ＊評価学Ⅰ（筋骨格系の触診）で活用する知識を学ぶ。			
【到達目標】 ①身体の仕組みと働きについて説明できる ②骨・関節の構造と機能について説明できる ③筋の構造と機能について説明できる ④靱帯の構造と機能について説明できる ⑤生活基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行）を解剖学的に説明できる ⑥スポーツにおける基本動作（走跳投打）を解剖学的に説明できる			
回	学習項目	学 習 内 容	行動目標
1	総 論	解剖学総論	解剖学の学習計画を決定できる
2	専門用語	人体区分と骨	専門用語について説明できる
3		方向と運動の面と軸	
4		運動用語（関節と各種運動）	
5	身体の仕組みと働き	骨の構造と機能	身体組織の構造と機能について説明できる
6		関節の構造と機能	
7		骨・関節の構造と機能	
8		筋の構造と機能	
9		神経の構造と機能	
10		呼吸循環器系の構造と機能	
11	人体区分における骨・関節・筋	上肢の骨と関節	人体区分における骨・関節・筋について説明できる
12			
13		上肢の筋と運動	
14		下肢の骨と関節	
15			
16		下肢の筋と運動	

回	学習項目	学 習 内 容	行動目標
17	人体区分における 骨・関節・筋	体幹の骨と関節	人体区分における骨・関節・筋について説明できる
18			
19		体幹の筋と運動	
20	上肢の筋骨格系	肩甲帯・肩関節の構造	肩甲帯・肩関節に関する筋の起始・停止・作用について説明できる
21		肩甲帯の筋	
22		肩甲上腕関節の筋	
23		20～22 回の学習確認	
24		肘関節の構造	肘関節, 前腕, 手関節に関する筋の起始・停止・作用について説明できる
25		肘関節の筋	
26		前腕の構造	
27		前腕の筋（回内・外筋）	
28		24～27 回の学習確認	
29		橈骨手根関節の構造	手関節, 手指の関節に関する筋の起始・停止・作用について説明できる
30		手根関節, 手指関節の構造	
31		手関節, 手指の関節の筋	
32		29～31 回の学習確認	
33	下肢の筋骨格系	股関節の構造	股関節, 膝関節に関する筋の起始・停止・作用について説明できる
34		股関節の筋	
35		膝関節の構造	
36		膝関節の筋	
37		33～36 回の学習確認	
38		距腿関節, 距踵関節の構造	足関節, 足指の関節に関する筋の起始・停止・作用について説明できる
39		足関節の筋	
40		足趾の筋	
41		38～40 回の学習確認	
42	体幹の筋骨格系	脊椎と胸郭の構造	体幹の関節に関する筋の起始・停止・作用について説明できる
43		脊椎と胸郭の筋	
44		骨盤帯の筋	
45		42～44 回の学習確認	

回	学習項目	学 習 内 容	行 動 目 標	
46	上肢の運動と 筋骨格構造と機能	肩甲帯と肩関節の運動連携と筋活動	肩の運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する	
47				
48		肩関節における靱帯機能		
49		機能的関節の機能と構造		
50		肘関節における靱帯機能	肘と前腕の運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する	
51		前腕の連結構造と機能		
52		前腕の運動と筋機能		
53		手関節と手根関節の機能	手と手指の運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する	
54		手関節の靱帯機能		
55		手指の靱帯機能		
56		外・内在筋と手指機能		
57		上肢の運動と神経機構	上肢の運動神経について説明する	
58		下肢の運動と 筋骨格構造と機能	股関節の靱帯機能	股関節と膝関節の運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する
59			骨盤帯と股関節の運動	
60	膝関節の関節内運動			
61	膝関節の回旋運動機構			
62	膝関節の靱帯機能			
63	股関節・膝関節の連動運動		足と足趾の運動と足アーチに関与する筋骨格構造と機能について説明する	
64	膝蓋大腿関節構造と機能			
65	距腿, 距踵関節の靱帯機能			
66	距踵関節の筋			
67	足のアーチ構造と機能			
68	アーチ構造と靱帯・筋作用			
69	下肢の運動と神経機構	下肢の運動神経について説明する		
70	体幹の運動と 筋骨格構造と機能	脊柱の支持構造と運動	体幹の運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する	
71		脊柱の靱帯機能		
72		胸郭の構造と機能	胸郭の運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する	
73		呼吸機能と筋活動		
74		顔面, 眼球運動と筋活動	顔面・摂食嚥下運動に関与する筋骨格構造と機能について説明する	
75		摂食・嚥下と筋活動		
授業形態		講義、骨・筋模型を用いた演習	評価方法	筆記試験
教科書		『分冊 解剖学アトラスⅠ 運動器』平田 幸男 訳／文光堂 『基礎運動学』中村 隆一／医歯薬出版		
参考書		『リファレンスブック』公益財団法人日本スポーツ協会		

授業科目名	神経系の構造と機能	実施時期	1 年次 前期・後期
授業回数	90 分×45 回	単位・時間数	3 単位 90 時間
担当者名	堀田 麻緒（理学療法士）、他		
【授業の概要・目的】 理学療法の基礎となる神経系の基本構成と興奮伝導の知識を深め、中枢神経系と末梢神経系、感覚器の構造と機能を学ぶことを目的とする。			
【到達目標】 1. ニューロンの構造と機能を説明ができる。 2. 末梢神経の構造と機能を説明できる。 3. 中枢神経系の構造と機能を説明できる。 4. 感覚器の構造と機能を説明できる。 5. 自律神経系の構造と機能を説明できる。			
回	学習項目	学習内容	行動目標
1	総論	神経の構造（解剖）	神経区分、神経組織、髄膜、脳脊髄液と脳室の概要について把握できる
2			
3	ニューロンの構造と機能	神経の興奮と伝導	ニューロンの基本構造 神経の分類について列挙できる
4			神経の興奮（膜電位、活動電位）について把握し、説明ができる
5			神経の伝導（跳躍、三原則、伝導速度）について図示や説明ができる
6			シナプス伝達について説明できる
7	末梢神経の構造	脊髄神経	脊椎の構造（何対、根、枝、皮節）を想起し、ベルの法則について説明ができる
8			神経叢の概要について図示し説明できる
9			頸神経叢、腕神経叢の構造と分類について把握し説明できる
10			腰神経叢、仙骨神経叢の構造と分布について用語を想起し図示し説明できる
11		脳神経	脳神経の名称、核、頭蓋底について用語を理解し列挙できる
12			
13	末梢神経の機能	運動および筋緊張	運動ニューロンと運動単位について用語を用いて説明できる
14			
15			脊髄反射について用語を用いて説明できる

回	学習項目	学習内容	行動目標
16	中枢神経の構造と機能	概要	中枢神経系の区分と構成（灰白質、白質、網様体）について図示できる
17			代表的な伝導路（上・下行路）について用語を用いて説明できる
18		上行路_後索路	識別性触・圧覚および意識性深部感覚について整理し説明できる
19			脊髄（薄束、楔状束）、脳幹（薄束、薄束核、楔状束、楔状束核、内側毛帯）、大脳（視床、皮質）の用語を理解できる
20		上行路_前脊髄視床路	粗大触・圧覚、脊髄（後角、前索）、大脳（視床、皮質）について説明できる
21		上行路_外側脊髄視床路	温度・痛覚、脊髄（後角、側索）、大脳（視床、皮質）について説明できる
22		下降路_錐体路	上位中枢による運動制御、大脳（皮質、内包）、脳幹（脳神経核、大脳脚、錐体）について説明できる
23			脊髄（側索、前索、前角）について説明できる
24		下降路_錐体外路	上位中枢による運動制御、脳幹（赤核、網様体、前庭神経核）について説明できる
25		まとめ	脊髄路の構成について理解し説明できる
26		小脳の構造と機能	外形と区分、小脳脚、小脳皮質、小脳核について把握し整理できる
27			入出力と機能について説明できる
28		大脳の構造と機能	間脳（視床脳、視床下部）、終脳（大脳半球の表面と区分）について説明できる
29			大脳皮質と髄質、大脳皮質の機能局在について図示し説明できる
30			大脳基底核の構成について用語を理解し列挙できる
31			大脳基底核の入出力と機能について説明できる
32		まとめ	中枢神経の機能と構造についての用語を把握し説明できる
33			

回	学習項目	学習内容	行動目標	
34	感覚器 自律神経系 の構造と機能	体性感覚	体性感覚の神経路や機能について説明できる	
35		視覚	視覚の神経路や機能について説明できる	
36				
37		聴覚	聴覚の神経路や機能について説明できる	
38				
39		平衡感覚	平衡感覚の神経路や機能について説明できる	
40				
41		味覚・嗅覚	味覚・嗅覚の神経路や機能について説明できる	
42		自律神経	伝達物質、様々な調節を把握し説明できる	
43			自律神経機能の中枢を把握し説明できる	
44		まとめ	感覚器・自律神経の構造と機能を把握し、図示し用語を用いて説明できる	
45				
授業形態		講義	評価方法	筆記試験
教科書		『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』 野村 嶧 編／医学書院 『スタンダード生理学』二宮 石雄、他／文光堂		
参考書				

授業科目名	内部系の構造と機能	実施時期	1 年次 前期
授業回数	90 分×45 回	単位・時間数	3 単位 90 時間
担当者名	布上 隆之（呼吸認定理学療法士、呼吸療法認定士、心不全療養指導士） 前坂 宣明（看護師）		
【授業の概要・目的】 本科目は、理学療法の基礎となる内臓諸器官系の構造と機能、代謝、血液と免疫機能を学ぶことを目的とする。			
【到達目標】 1. 呼吸器系の構造と機能を理解できる。 2. 代謝を理解できる。 3. 循環器系の構造と機能を理解できる。 4. 血液・免疫を理解できる。 5. 消化器系の構造と機能を理解できる。 6. 泌尿器系の構造と機能を理解できる。 7. 内分泌系の構造と機能を理解できる。			
回	学習項目	学習内容	行動目標
1	呼吸器系の構造と機能	概要、呼吸器系の構造	鼻腔、咽頭、喉頭の構造について理解できる
2			気管支、肺の構造について理解できる
3		肺気量	スパイロメーターと肺気量の関係について理解できる
4		胸郭運動	呼吸筋の役割、呼吸周期における圧力の変化について理解できる
5		ガス交換	ガス分圧、酸素解離曲線について理解する
6			
7			
8		呼吸運動の調節	呼吸の神経性調節について理解する
9			
10			
11		酸塩基平衡	呼吸性アシドーシスとアルカローシスを理解する
12			
13			
14	代謝	色々なエネルギー代謝量	基礎・安静時・エネルギー代謝率、代謝当量について理解できる
15		酸素需要と酸素負債	酸素需要と酸素負債について理解できる

回	学習項目	学習内容	行動目標
16	循環器系の構造と機能	心臓の構造	心臓の位置・大きさ、内部構造、冠動脈について理解する
17			
18			
19		刺激伝導系	洞房結節、房室結節、ヒス束、脚、プルキンエ線維の名称を理解する
20		心周期	心周期に伴う圧、容積の変化について理解する
21		心臓ポンプ機能の調節	拍出量、心拍数の体液性調節・神経性調節について理解する
22		脈管系の構造	動脈、静脈、門脈の構造、成人と胎児の脈管系の違いと特徴について理解できる
23			
24			
25			リンパ系、血液、造血組織の構造について理解できる
26		血圧	収縮期および拡張期血圧、血圧の決定因子、血圧の神経性調節について理解する
27			
28		心筋細胞の電気生理	心筋細胞の興奮と収縮の過程を理解する
29		心電図	心電図波形の名称と電気整理との関連、心電図の測定方法を理解する
30			
31	血液・免疫	血液成分と機能	細胞成分と液体成分、血液の役割について理解できる
32		赤血球、白血球、血小板	赤血球の形態、ヘモグロビンの役割、赤血球の産生と崩壊、白血球・血小板の形態と働きについて理解できる
33		免疫	液性・細胞性免疫の仕組み、抗体の種類と多様性、能動・受動免疫について理解できる
34	消化器系の構造と機能	消化器系の構造	口腔、咽頭、食道、胃の構造について理解できる
35			肝臓、胆嚢、膵臓の構造について理解できる
36			小腸、大腸の構造について理解できる

回	学習項目	学習内容	行動目標		
37	消化器系の構造と機能	消化器系の運動	咀嚼と嚥下の仕組み、胃腸の運動とその調節について理解できる		
38		消化酵素の作用	口腔、胃、小腸、大腸における消化液分泌の仕組みについて理解できる		
39		栄養素の吸収	小腸での吸収と内臓循環について理解できる		
40	泌尿器系の構造と機能	泌尿器系の構造	腎臓、尿管の構造について理解できる		
41			膀胱、尿道の構造について理解できる		
42		泌尿器系の機能	腎臓の機能について理解できる		
43			膀胱の機能について理解できる		
44	内分泌系の構造と機能	内分泌系の構造	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、精巣、卵巣の構造が理解できる		
45		内分泌系の機能	ホルモンの概要、作用が理解できる		
授業形態		講義	評価方法		筆記試験
教科書		『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』 野村 巖 編／医学書院 『スタンダード生理学』二宮 石雄、他／文光堂			
参考書					

授業科目名	運動生理学演習Ⅰ	実施時期	1 年次 後期	
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間	
担当者名	徳田 裕（理学療法士）			
【授業の概要・目的】 本科目は、様々な検査を通して呼吸、循環、神経筋の構造と機能について理解を深めることを目的とする。				
【到達目標】 1．呼吸機能検査を通して肺気量分画、努力呼気曲線、フローボリューム曲線の所見と呼吸機能を関連付けて理解できる。 2．心電図検査を通して心臓の機能について理解できる。 3．筋電図検査を通して筋運動学的分析や神経生理について理解できる。				
回	学習項目	学習内容	行動目標	
1	運動生理学演習	呼吸機能 （呼吸機能検査）	・呼吸機能検査について理解を深め説明できる	
2				
3				
4				
5				
6		循環機能 （心電図）	・1 2 誘導の測定を体験し、心臓の活動について理解を深め説明できる	
7				
8				
9				
10				
11		神経筋 （表面筋電図）	・表面筋電図について理解を深め説明できる ・動作分析における表面筋電図の解析について理解を深め説明できる	
12				
13				
14				
15				
授業形態		講義・演習	評価方法	筆記試験、報告書の提出、態度を総合的に判定し行う
教科書		『スタンダード生理学』二宮 石雄、他／文光堂		
参考書				

授業科目名	運動生理学演習Ⅱ	実施時期	2 年次 前期
授業回数	90 分×30 回	単位・時間数	2 単位 60 時間
担当者名	徳田 裕（理学療法士）、酒井 吉仁（理学療法士：基礎理学療法専門）		
【授業の概要・目的】			
本科目は、様々な測定を通して骨格筋、神経筋、呼吸、心臓の構造と機能について理解を深めることを目的とする。			
【到達目標】			
1. 様々な運動様式、角速度で測定された筋力の結果と骨格筋の構造と機能を関連付けて理解できる。			
2. トルク、収縮速度手、疲労について理解できる。			
3. 神経筋の機能として脊髄反射、誘発筋電図について理解できる。			
4. 運動時の循環反応として心電図、血圧、心拍数を関連付けて理解できる。			
5. 運動負荷試験で得られた呼気ガス分析の結果と最大酸素摂取量、肺機能向上の運動処方、酸素負債、無酸素性閾値を関連付けて理解できる。			
回	学 習 内 容	回	学 習 内 容
1	4 課題の演習を行う。 ①筋力 ・筋力測定 ②神経筋 ・神経伝導速度、F 波、H 反射 ③循環 ・運動時の脈拍、血圧測定分析 ・心電図測定、異常心電図 ④最大下運動試験 ・最大酸素摂取量の推定 ・肺機能向上の運動処方 ・酸素負債 ・無酸素性閾値	16	演習は各課題での講義、演習、レポート作成、まとめからなる。 2 グループ編制にて各担当教員と進める。 (各課題における学習目標については、配布資料を確認)
2		17	
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
授業形態	講義、演習	評価方法	試験及びレポート、授業への参加態度を総合的に判定して行う
教科書	配布テキスト（『運動生理学演習マニュアル』）		
参考書	資料：『運動生理学演習マニュアル』 『基礎運動学』中村 隆一 他／医歯薬出版 『スタンダード生理学』二宮 石雄 他編／文光堂		

授業科目名		運動学	実施時期	1 年次 後期
授業回数		90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名		徳田 裕（理学療法士）		
【授業の概要・目的】 ・身体運動の基本をなす、力学、姿勢、歩行、運動分析、運動学習、体力、運動処方、摂食・嚥下について学ぶ。				
【到達目標】 ・運動のメカニズムを理解し説明できる。 ・正常歩行を理解し異常歩行の説明ができる。 ・効率的な運動が行えるように、運動分析や運動学習、運動処方について説明できる。 ・筋電図の測定、解析について理解し説明できる。				
回	学習項目	学習内容	行動目標	
1	力学	身体とてこ	身体のとこの種類と力学的有利性について理解する	
2		モーメント、運動法	身体におけるモーメントについて理解する	
3	姿勢	重心、立位姿勢	姿勢の記載と類型を理解する 人体の重心及び重心線を理解する	
4	歩行	歩行周期	歩行周期を理解する	
5		力学的分析	重心移動、関節角度変化について理解する	
6		異常歩行	床反力、足底圧、筋モーメントについて理解する	
7	運動	運動分析	運動時の身体運動に関与する要因を理解する	
8		運動学習	運動技能の要素、指標について理解する 運動学習の理論（単純学習、条件づけ、問題解決）について理解する	
9		体力、運動処方	体力の定義を記憶する 身体運動のエネルギー代謝について理解する 運動処方の運動負荷試験の方法について理解する	
10	嚥下・摂食	嚥下・摂食運動	摂食・嚥下に関する筋、神経の構造を知り、摂食・嚥下運動を理解する	
11	運動分析	筋電図	筋電図について理解する	
12			筋電図学的分析について理解する	
13			周波数解析、筋積分値、協調性の分析を理解する	
14			誘発筋電図、神経伝導速度について理解する	
15			M波、H波、F波について理解する	
授業形態		講義	評価方法	筆記試験
教科書		『基礎運動学』中村 隆一／医歯薬出版		
参考書		『基礎から学ぶ運動学ノート』中島 雅美 他／医歯薬出版		

授業科目名	人間発達学	実施時期	1 年次 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	大西 美穂（理学療法士）		
【授業の概要・目的】			
胎児期から老年期までのそれぞれの発達期に特有の発達学的課題を中心に、各発達領域（身体・運動・認知・心理（情緒）・社会性など）の正常な発達過程を理解する。			
【到達目標】			
1．人間を生物学的な存在としてだけではなく、社会的な存在としても理解する。			
2．人間発達学を通して、幅広く豊かな人間観を身に付ける。			
回	学 習 内 容		
1	総論－発達の見方と発達検査の進め方		
2	胎児期・新生児期の発達		
3	乳児期の発達		
4	幼児期の発達		
5	学童期の発達		
6	青年期の発達		
7	成人期の発達		
8	老年期の発達		
9	脳・神経系の発達と障害		
10	内部機能（呼吸・循環・代謝）の発達と障害		
11	身体構造・運動機能の発達と障害		
12	感覚・知覚および認知機能の発達と障害		
13	言語機能の発達と障害		
14	情緒・社会性の発達と障害		
15	まとめ		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『リハビリテーションのための人間発達学』 大城 昌平／メディカルプレス		
参考書			

授業科目名	病理学	実施時期	1 年次 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	高川 竜子（医師）		
【授業の概要・目的】 どのようにして疾患が生じ、なぜ個体に種々の悪い影響が出現するのかという観点から、病気のなりたち、原因や進展機序など、疾病の基本/本質を理解する。			
【到達目標】 正常な生理学的、解剖学的知識の上で、細胞病理学的な形態の変化を理解し、病理学的な専門用語を習得する。病理組織学的変化と疾患の様々な臨床症状との関連を理解する。			
回	学 習 内 容		
1	総論 病理学入門、先天異常とその成因および染色体異常		
2	代謝障害 1：萎縮、変性、壊死		
3	代謝障害 2：糖、脂質、タンパク質、その他の代謝異常		
4	局所循環障害：出血、うっ血、虚血、血栓、塞栓、梗塞		
5	全身性循環障害：浮腫、ショック、心不全		
6	炎症の定義、分類、炎症細胞		
7	免疫とアレルギー：分類と免疫病理		
8	自己免疫性疾患：関節リウマチ、SLE の病理学的特徴、免疫不全症		
9	感染症の成立と感染源		
10	腫瘍：定義、分類、発育、進展、良性腫瘍と悪性腫瘍、悪性度 各臓器の腫瘍、前癌病変		
11	各論	中枢神経系の主な疾患の病理組織学的特徴	
12			
13		筋、骨関節疾患の主な疾患の病理組織学的特徴	
14			
15	高齢者の循環器疾患、呼吸器疾患の病理組織学的特徴		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『シンプル病理学』笹野 公伸、他編／南江堂		
参考書	『基準病理学 総論』青木 重久、小泉 富美朝 編著／南江堂 『カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学』清水 道生 編 ／メジカルビュー社		

授業科目名	臨床心理学	実施時期	2 年次 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	根塚 明子（臨床心理士、公認心理師）		
【授業の概要・目的】 臨床心理学の基礎理論、心理査定、面接の技法を学び、障害者・患者を含めた人間の理解と、リハビリテーション活動における相互的コミュニケーションの能力を養う。			
【到達目標】 人間の心を理解するための枠組みについて、その知識を習得する。人間の心の悩みや葛藤について理解できる能力を身につける。			
回	学 習 内 容		
1	臨床心理学の概要、臨床心理士の仕事について		
2	精神分析についての基礎理論（１）		
3	精神分析についての基礎理論（２）		
4	パーソンセンタード・アプローチについての基礎理論		
5	行動療法についての基礎理論		
6	認知行動療法についての基礎理論		
7	家族療法、および集団心理療法についての基礎理論		
8	日本で開発された心理療法、および動作療法についての基礎理論		
9	子どもへの心理療法、および芸術療法についての基礎理論		
10	臨床心理学におけるアセスメント（１）		
11	臨床心理学におけるアセスメント（２）		
12	高齢者の心理		
13	リハビリテーションにおける臨床心理学的関与（１）		
14	リハビリテーションにおける臨床心理学的関与（２）		
15	まとめ		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『最新リハビリテーション基礎講座 臨床心理学』 山口 加代子、他編著／医歯薬出版株式会社		
参考書			

授業科目名	一般臨床医学	実施時期	2 年次 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	武田 茂憲（医師）、他		
【授業の概要・目的】			
医学総論、公衆衛生総論をはじめ救命救急、外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科等の理学療法士に必要な疾患について、その症状と治療の概要を理解する。			
【到達目標】			
当該疾患における症状や治療を理解するとともに、関連する障害や対応についての知識を有する。			
回	学 習 内 容		
1	医学総論		
2			
3	救急救命医療		
4	皮膚疾患		
5			
6	外科総論		
7			
8			
9	公衆衛生総論		
10	泌尿器疾患		
11			
12	脳外科疾患 1 総論		
13	脳外科疾患 2 脳血管障害		
14	脳外科疾患 3 脳腫瘍		
15	脳外科疾患 4 外傷、その他		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『PT・OT・STのための一般臨床医学』椿原 彰夫、他編著／医歯薬出版		
参考書			

授業科目名	内部障害と臨床医学		実施時期	2 年次 前期・後期
授業回数	90 分×30 回		単位・時間数	2 単位 60 時間
担当者名	前期：浦風 雅春（医師）、他 後期：小栗 光（医師）、他			
【授業の概要・目的】 内部障害を生じる主な疾患の病態・症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療および理学療法への展開を学ぶことを目的とする。				
【到達目標】 1．内部障害を生じる主な疾患の病態・症状、疫学、予後を理解できる。 2．内部障害を生じる主な疾患の評価・検査を理解できる。 3．内部障害を生じる主な疾患の薬物療法などの一般的治療および理学療法への展開を理解できる。				
回	学 習 内 容		回	学 習 内 容
1	内科学総論		16	泌尿器の解剖、生理、検査所見
2	水・電解質の異常、輸液、血液浄化療法		17	泌尿器疾患（腎不全、ネフローゼ、糸球体腎炎、他）
3	体温調節の障害		18	代謝（生活習慣病、糖尿病）
4	病気の原因、症状徴候		19	肝疾患（肝炎、肝硬変、肝臓）
5	疾病の経過と転帰、終末期医療		20	胆道、脾疾患
6	感染		21	上部消化管疾患 癌（胃、食道）、潰瘍（十二指腸）
7	貧血、血液疾患、輸血		22	下部消化管疾患 クローン病、腸閉塞
8	ショック		23	循環器の解剖、生理
9	意識障害		24	虚血性心疾患、心不全
10	ストレス、感情障害、患者心理・反応		25	先天性・後天性心疾患
11	食事・栄養療法		26	動脈・静脈疾患、リンパ系
12	手術療法、放射線治療、その他		27	呼吸器の解剖、生理
13	薬物療法（1）		28	呼吸器疾患 （COPD、肺気腫、気管支炎、喘息）
14	薬物療法（2）		29	
15	心臓死と脳死、臓器移植		30	呼吸器疾患（間質性肺炎、肺線維症、肺塞栓症、他）
授業形態	講義		評価方法	筆記試験
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 前田 眞治 編集／医学書院			
参考書				

授業科目名	神経系障害と臨床医学	実施時期	2 年次 前期・後期
授業回数	90 分×30 回	単位・時間数	2 単位 60 時間
担当者名	原田 淳（医師）、他		
【授業の概要・目的】 神経障害を生じる主な疾患の病態・症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療および理学療法への展開を学ぶことを目的とする。総論は 1 年次に履修した神経系の構造と機能を復習し、各論はその知識を応用して個々の疾患についての理解を深める。神経学的検査は、画像診断、神経生理学的検査などの異常所見と神経機能との関連を学ぶ。			
【到達目標】 1. 神経障害を生じる主な疾患の基礎的な神経系の構造と機能を理解できる。 2. 神経障害を生じる主な疾患の病態・症状、疫学、予後を理解できる。 3. 神経障害を生じる主な疾患の評価・検査を理解できる。 4. 神経障害を生じる主な疾患の一般的治療および理学療法への展開を理解できる。			
回	学 習 内 容	回	学 習 内 容
1	総論：神経系総論	16	各論：脳血管障害 1（脳出血）
2	総論：下降路（錐体路系）	17	各論：脳血管障害 2（くも膜下出血）
3	総論：錐体路徴候	18	各論：脳血管障害 5（リハビリテーション）
4	総論：下降路（錐体外路系）	19	各論：神経症候群（意識障害、他）
5	総論：錐体外路徴候	20	各論：神経症候群（高次機能障害）
6	総論：上行路	21	各論：神経症候群（認知症）
7	総論：感覚器系	22	各論：脱髄疾患
8	総論：小脳の構造と機能	23	各論：変性疾患 1
9	総論：運動失調	24	各論：変性疾患 2
10	神経学的検査（画像診断等）	25	各論：筋疾患
11	神経学的検査（脳波、誘発電位等）	26	各論：感染性疾患
12	各論：パーキンソン病	27	各論：遺伝性疾患
13	各論：パーキンソン症候群	28	各論：神経免疫疾患
14	各論：脳血管障害 1（総論）	29	各論：脊椎・脊髄疾患
15	各論：脳血管障害 1（脳梗塞）	30	各論：末梢神経疾患
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』 川平 和美 編集／医学書院		
参考書	『ベッドサイドの神経の診かた』田崎 義昭、斉藤 佳雄／南山堂 『神経局在診断 その解剖、生理、臨床』Peter Duns 著／文光堂		

授業科目名	運動器障害と臨床医学		実施時期	2 年次 前期・後期
授業回数	90 分×30 回		単位・時間数	2 単位 60 時間
担当者名	前期 (1～15 回)：橋本 二美男 (医師)、他 後期 (16. 17. 25. 26 回)：相川敬男 (スポーツ協会公認スポーツドクター) (18. 23. 24. 30 回)：丸箸 兆延 (スポーツ協会公認スポーツドクター) (19. 20. 22. 29 回)：香川 桂、(21. 27. 28 回)：道振 義治			
【授業の概要・目的】 整形外科の概要を学ぶ。特に理学療法士が臨床で接することが多いと考えられる疾患については、リハビリテーションと関連付けて学習する。				
【到達目標】 ・整形外科領域の基礎知識を習得する ・整形外科疾患とその機能障害、リハビリテーションとの関連について習得する				
回	学 習 内 容		回	学 習 内 容
1	診断と検査、治療 (外傷：骨折)		16	体幹のスポーツ外傷・障害 (胸腹部)
2	診断と検査、治療 (外傷：骨折、脱臼)		17	体幹のスポーツ外傷・障害 (腰部)
3	診断と検査、治療 (外傷：腱・靱帯損傷)		18	上肢のスポーツ外傷・障害 (肩関節)
4	診断と検査、治療 (外傷：皮膚損傷、 筋損傷、挫滅症候群)		19	上肢のスポーツ外傷・障害 (肘関節)
5	診断と検査、治療 (外傷：血管損傷、区画症候群)		20	上肢のスポーツ外傷・障害 (前腕・手・手指)
6	診断と検査、治療 (外傷：脊椎・脊髄損傷)		21	上肢のスポーツ外傷・障害 (上肢の絞扼神経障害)
7	診断と検査、治療 (外傷：末梢神経損傷)		22	下肢のスポーツ外傷・障害 (骨盤・股関節)
8	診断と検査、治療 (骨、関節、筋の感染症)		23	下肢のスポーツ外傷・障害 (大腿部)
9	診断と検査、治療 (関節リウマチ)		24	下肢のスポーツ外傷・障害 (膝関節)
10	診断と検査、治療 (慢性関節疾患)		25	下肢のスポーツ外傷・障害 (下腿部)
11	診断と検査、治療 (循環障害、阻血)		26	下肢のスポーツ外傷・障害 (足関節・足部)
12	診断と検査、治療 (先天性奇形)		27	重篤な外傷・障害・疾病 (頭部)
13	診断と検査、治療 (代謝性骨疾患)		28	重篤な外傷・障害・疾病 (頸部)
14	診断と検査、治療 (骨・軟部腫瘍)		29	女性のスポーツ外傷・障害
15	診断と検査、治療 (切断、離断)		30	スポーツ動作演習
授業形態	講義		評価方法	筆記試験
教科書	『標準整形外科学』内田 淳正 監修／医学書院 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト 2 安全・健康管理および スポーツ外傷・障害の予防』公益財団法人日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト 3 スポーツ医学概論』 河野一郎 監修／文光堂			
参考書				

授業科目名	精神障害と臨床医学	実施時期	2 年次 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	小林 寿夫（医師・医学博士）、他		
【授業の概要・目的】 精神疾患あるいは精神障害の症状と治療、予後予測、リスク管理などについて理解することを目的とする。リハビリテーション専門職として治療対象となることが多い疾患の病態、症状、治療法、予後について学習する。			
【到達目標】 1. 精神疾患・精神障害の病態と症状について説明できる。 2. 精神疾患・精神障害の治療について説明できる。 3. 精神疾患・精神障害の予後予測・リスク管理について説明できる。 4. リハビリテーションで問題となる精神問題の特性・対応についてイメージできる。			
回	学 習 内 容		
1	精神障害とは、歴史、法律、現状、問題点		
2	精神症状学 1		
3	精神症状学 2		
4	精神科診断学		
5	精神保健		
6	統合失調症		
7	気分障害		
8	老年期精神障害 1		
9	老年期精神障害 2		
10	器質性精神障害、物質依存		
11	治療（薬剤） 1		
12	治療（薬剤） 2		
13	てんかん、睡眠障害		
14	小児・思春期の精神障害		
15	神経症性障害、ストレス関連障害		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『専門医がやさしく語る はじめての精神医学』渡辺 雅幸／中山書店		
参考書			

授業科目名	小児の障害と臨床医学	実施時期	2 年次 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	嶋 大二郎（医師）		
【授業の概要・目的】 成人とは全く異なる小児の生理と病理の特徴を知ったうえで各疾患を理解できるようにする。			
【到達目標】 子どもという特性を踏まえた患児への対応能力を持つ。			
回	学 習 内 容		
1	小児の生理・特徴		
2	先天異常		
3	新生児、未熟児		
4	感染症（１）		
5	感染症（２）		
6	循環器		
7	呼吸器		
8	内分泌		
9	血液・腫瘍		
10	消化器		
11	泌尿生殖器		
12	神経		
13	事故・虐待、その他		
14	アレルギー、小児の医療費		
15	重症心身障害		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験、授業への参加度
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』 奈良 勲 監修／医学書院		
参考書			

授業科目名	老年期障害と臨床医学	実施時期	2 年次 後期	
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間	
担当者名	布上 隆之（理学療法士：サルコペニア・フレイル認定指導士）、他			
【授業の概要・目的】 加齢に伴って病気または心や体の状態の問題が複雑に関連しあうことにより生じる「老年症候群」について学習する。				
【到達目標】 老年期に特有の疾患・身体機能障害について理解する。				
回	学習項目	学習内容		
1	加齢と老化	老化とは、老化と生涯発達（ライフステージ）、高齢者とのかかわり方		
2	抗老化医学	アンチエイジングの概要（心臓病、認知症、ガン予防の食事と運動）		
3	形態の老化	脊柱変形、アライメント変化、柔軟性変化とADLへの影響と運動療法		
4	骨の老化	骨の加齢変化、リモデリング、骨の老化評価、骨粗鬆症への運動療法		
5	筋の老化	筋の加齢変化、筋の老化評価、筋萎縮予防の運動療法		
6	呼吸機能の老化	換気能力の老化、COPD、呼吸理学療法		
7	循環機能の老化	加齢と循環器疾患、心臓ポンプ機能の加齢、心臓リハビリ		
8	神経系の老化	運動制御、平衡機能、反応動作の老化と運動療法		
9	神経系の老化	認知機能の老化とその予防		
10	高齢者のADL	加齢に伴うADL変化、評価と対応		
11	老化と生活習慣	運動機能、ストレス、抗酸化剤、ホルモン、肥満、嗜好		
12	健康と運動	高齢者の体力測定と運動の実践		
13	老化予防の アプローチ	高齢者の排尿機能チェックと機能向上		
14		高齢者の口腔機能チェックと機能向上		
15		高齢者における栄養学の知識		
授業形態		講義	評価方法	筆記試験
教科書		資料		
参考書				

授業科目名	リハビリテーション医学	実施時期	2 年次 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当者名	水口 且久（理学療法士）		
【授業の概要・目的】 理学療法士にとって必要なリハビリテーション医学の概念・原理・方法論を学ぶ。 加えてリハビリテーションの対象となる疾患の基本的事項を学ぶ。			
【到達目標】 リハビリテーション医学の基礎的な知識、技術、治療体系を理解し、これを応用して リハビリテーション実施に役立てる。 日常、遭遇しやすい疾患におけるリハビリテーションの実施について理解する。			
回	学 習 内 容		
1	リハビリテーション医学総論 概念、原理、特徴		
2	疾患に対するリハビリテーション理解 脳血管障害		
3	疾患に対するリハビリテーション理解 神経筋疾患		
4	疾患に対するリハビリテーション理解 運動器疾患（1）		
5	疾患に対するリハビリテーション理解 運動器疾患（2）		
6	疾患に対するリハビリテーション理解 呼吸器・心疾患・糖尿病・がん		
7	疾患に対するリハビリテーション理解 廃用症候群・脊髄損傷・切断		
8	疾患に対するリハビリテーション理解 小児疾患		
9	障害に対するリハビリテーション 機能障害とアプローチ（1）		
10	障害に対するリハビリテーション 機能障害とアプローチ（2）		
11	障害に対するリハビリテーション 活動制限とアプローチ		
12	障害に対するリハビリテーション 高次脳機能障害		
13	障害に対するリハビリテーション 全身状態の理解		
14	障害に対するリハビリテーション 精神・心理面の障害・ADL 障害		
15	病期からみたリハビリテーション 在宅復帰と介護予防		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『リハビリテーションビジュアルブック』 落合 慈之 監修／学研メディカル秀潤社		
参考書			

授業科目名	人間工学	実施時期	2 年次 後期
授業回数	90 分×8 回	単位・時間数	1 単位 15 時間
担当者名	大島 徹（工学博士）		
【授業の概要・目的】 人間の機能を計測・評価し、道具・機器などを設計・選択・使用していく上での人間工学の考え方を学び、人間と道具・機器を観察できる力を養う。さらに、医療福祉における人間工学の重要性を学ぶ。			
【到達目標】 ・人間工学の基本概念に基づいて人間と道具・機器などの関係を理解し説明できる。 ・人間工学的な人間の計測と評価に基づいて人間と道具・機器などを観察できる。 ・医療福祉の観点から人間工学を理解し説明できる。			
回	学 習 内 容		
1	人間工学とは：人間工学の目的や定義、意義、歴史的発展等について講義する。 機器中心の「ものづくり」と、人間中心の「ものづくり」の相違について理解する。		
2	人間の各種機能を測る：人間の感覚から運動までの各種機能について講義する。 人間の各種機能の特徴と、その人間工学的な計測と評価手法について理解する。		
3	人間の特徴と道具・機器の使用性：道具・機器の使いやすさについて講義する。 人間の特徴を指針として設計・選択・使用される道具・機器について理解する。		
4	テクノエイド：人間工学に基づいた福祉用具・機器の設計について講義する。 福祉用具・機器の設計において人間工学の技法の必要性について理解する。		
5	バイオメカニクス：人間の構造における静的・動的な運動や力について講義する。 人間の静的・動的な運動や力に基づく道具・機器や介護動作について理解する。		
6	ユニバーサルデザイン：バリアフリー・ユニバーサルデザインについて講義する。 バリアフリー・ユニバーサルデザインの概念と、道具・機器について理解する。		
7	ヒューマンエラー：ヒューマンエラーとリスクマネジメントについて講義する。 エラーを誘発する人間の特性とエラー回避、および危機管理について理解する。		
8	人間工学と医療福祉：まとめと医療福祉と人間工学の重要性について講義する。 講義内容をまとめ、医療福祉の視点からも人間工学の重要性について理解する。		
授業形態	講義	評価方法	課題およびレポートを総合的に評価する。
教科書	資料配布		
参考書	『人間工学講義』山岡 俊樹 編／武蔵野美術大学出版局 『看護・介護のための人間工学入門』小川鑛一 他／東京電機大学出版局		

授業科目名	リハビリテーション概論	実施時期	1 年次 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当者名	田中 勝（理学療法士）		
【授業の概要・目的】			
・リハビリテーションとは何を意味している言葉なのか。リハビリテーション専門職である理学療法士に求められる事は何かを、グループワークを通して学んでいく。			
【到達目標】			
・理学療法士に必要なリハビリテーションの理念を説明できる。 ・リハビリテーション専門職種としての目的・役割が説明できる。			
回	学 習 内 容		
1	コースオリエンテーション		
2	リハビリテーションとは何か		
3	リハビリテーションが目指すもの		
4	病気とは		
5	障害とは		
6	ノーマライゼーションとは		
7	障害の受容とは		
8	リハビリテーションの諸段階		
9	リハビリテーションの諸領域		
10	リハビリテーションの過程		
11	リハビリテーション専門職種		
12	チームアプローチとは		
13	チームアプローチに求められるもの		
14	社会保障制度とは		
15	リハビリテーションとは（まとめ）		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『リハビリテーションビジュアルブック』 落合慈之 監修／学研メディカル秀潤社		
参考書	医学辞書・関連専門書		

授業科目名	保健医療福祉制度論	実施時期	2 年次 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当者名	清水 剛志（社会福祉士）		
【授業の概要・目的】 わが国の保健・医療・福祉制度の現状と動向をとらえ、各制度の体系と仕組みについて理解する。			
【到達目標】 ・社会保障、社会福祉に関する総合的な知識を修得する。 ・それぞれの制度のあり方と今後の課題について考察する。			
回	学 習 内 容		
1	社会保障・社会福祉とは何か		
2	社会保障・社会福祉の歴史		
3	社会福祉のしくみと社会資源		
4	子ども・家庭の福祉		
5	障害児・者の福祉		
6	生活保護と生活困窮者支援		
7	高齢者の福祉		
8	地域福祉		
9	年金制度		
10	医療保険制度		
11	医療保険制度		
12	介護保険（介護保険制度の概要）		
13	介護保険（介護保険制度の見直し）		
14	雇用保険制度		
15	労災保険制度		
授業形態	講義	評価方法	レポート、筆記試験
教科書	『ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障 社会福祉と社会保障』／メディカ出版		
参考書	『国民の福祉と介護の動向』一般財団法人 厚生労働統計協会 最新版		

授業科目名	隣接領域概論	実施時期	3 年次 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当者名	田中 勝（理学療法士）		
【授業の概要・目的】			
・病院、施設、在宅での医療、介護の関連職種との関係性を学び、患者や患者家族を含めた、多職種連携の概要を理解する。			
【到達目標】			
・理学療法士に必要なコミュニケーションを理解し多職種連携の進め方が説明できる。 ・多職種連携に関わる職種とその役割を説明できる。			
回	学 習 内 容		
1	多職種連携とは		
2	コミュニケーションの基本的な考え方		
3	医療職のコミュニケーションに必要とされる能力		
4	医療職に必要なコミュニケーションの要素		
5	医療職に必要なコミュニケーション手法		
6	多職種連携の目的		
7	リーダーシップとメンバーシップ		
8	チームアプローチにおける課題と対応		
9	病院（急性期・回復期）での多職種連携について		
10	病院（急性期・回復期）でのチームアプローチの検討（1）		
11	病院（急性期・回復期）でのチームアプローチの検討（2）		
12	在宅での多職種連携について		
13	在宅でのチームアプローチの検討（1）		
14	在宅でのチームアプローチの検討（2）		
15	多職種連携の実践について		
授業形態	講義・演習	評価方法	筆記試験
教科書	『コミュニケーション論・多職種連携論』内山 靖、他 編／医歯薬出版		
参考書	『リハビリテーションビジュアルブック』 落合 慈之 監修／学研メディカル秀潤社		